

【氏名】 深川 宏樹

【所属大学院】 (助成決定時)

筑波大学大学院 人文社会科学部 歴史・人類学専攻

【研究題目】

パプアニューギニア高地、鉱山開発地区における商業活動と贈与交換に関する人類学的研究

【研究の目的】

本研究は文化人類学の贈与交換論の視点から、ニューギニア高地のポルゲラ金鉱山開発地区において、特定の文化的・社会的背景をもつ社会がどのように市場経済に組み込まれているのか、それが伝統的な贈与交換慣行や、ニューギニア高地独自の商業活動の形態にいかなる影響を与えているのかを明らかにする。

特に、本研究では、非西欧社会における市場経済受容に関する従来の議論では十分には論じられてこなかった商業活動を研究の焦点とし、その特徴を贈与交換論から論じる。従来の研究では、特定の商業活動を先導するリーダーの役割や、商業活動から得られた利益がリーダーによって儀礼的贈与交換へ投入される点などが論じられてきた。本研究はそこから歩を進め、既存の贈与交換の様態が、現在の商業活動の形態にどのような影響を及ぼし、同時に、商業活動を行うようになった人々が、贈与交換をいかに変容させているのかという点に着目する。

【研究の内容・方法】

現地における長期調査は、2007年3月から2007年9月までの7ヶ月間、パプアニューギニア、エンガ州のポルゲラにおいて行なわれた。筆者は調査期間中、2ヶ月間はポルゲラの鉱山街パイアムに滞在し、5ヶ月間は鉱山街から西方へ5kmほど離れた地域、下ポルゲラの諸村落に滞在した。

パイアムに滞在中、鉱山会社 Barrick の職員宅に居住し、職員にインタビューするとともに、鉱山街、鉱山街周辺村落の人びとからも情報を得た。また、下ポルゲラの村落に滞在中、地理、人口、世帯別財産、親族名称、系譜図、生産活動、消費活動、日常的贈与交換および儀礼時の贈与交換、商業活動、共同労働、リーダーシップ、鉱山開発の土地使用料、補償金をめぐる鉱山会社と人々の交渉に関する調査を行った。

村落部の人々が営む商業活動は、概して、商店経営、バス運営、ビール販売などである。その主な資金源は、鉱山会社によって支払われる鉱山開発の土地使用料と、河川汚染に対する補償金である。これらの商業活動は、人々からピジン英語で「ビジネス(bisnis)」と呼ばれ、商業活動だけでなく、より広い現金獲得活動を含むものとしてカテゴリー化されて

いる。「ビジネス」に含まれる他の現金獲得活動とは、第一に、市場における農作物の販売、そして第二に、鉱山会社雇用の警備員などの賃金労働である。さらに、婚資の支払いなど、伝統的な儀礼的贈与交換さえも、「祖先のビジネス」として、「ビジネス」のカテゴリーに包含されている。

「ビジネス」においては、多くの土地を所有する共同体のリーダーの存在が顕著である。彼らは、多額の土地使用料、補償金を受けとっており、その資金を元手に商業活動を成功させる傾向にある。加えて、「祖先のビジネス」儀礼的贈与交換においても、商業活動に成功したリーダーは、現金で豚を購入し、多額の現金と多くの豚を贈与することで、そのリーダーシップを強化している。

【結論・考察】

1960年代から1970年代にかけて、ニューギニア高地では伝統的リーダーであるビッグ・マンが主導する大規模なコーヒー園経営や、商店経営が見られた。そこでは、ビッグ・マンはリーダー・フォロワー関係を活用し、それらの商業活動を成功させていた。対照的に、現在のポルゲラでは集団規模の現金獲得活動はもはや行われておらず、極めて個人化した商業活動、現金獲得活動が展開されている。

他方で、依然、リーダーが、鉱山開発の土地使用料を含め、財・現金の流れを大きく方向づけつつ、自身のリーダーシップを強化する傾向は持続している。商業活動によって獲得された多額の現金は、リーダーによって儀礼的贈与交換に投入される。さらに、その儀礼的贈与交換自体も、商業活動などと連続性をもつ「ビジネス」の一種として捉えられている。つまり、商業活動、贈与交換、そして社会関係の構築は、リーダーを要として依然として「ビジネス」のなかで連動していると言える。